Shimada 3 2023 No.227 City Public Relations 広報しまだ

島田人物Story

Shimadajin File #133

多くの経験を通して、子どもたちに慕われる大人へ ――

今年1月に開催された「第31回全日本高校女子サッカー選手権」決勝で、藤枝順心高校が史上最多となる6度目の優勝を果たしました。チームのキャプテンを務めた三宅さんは、3月に学校を卒業。春からは、多くの人から尊敬される教員を目指し、新たな一歩を踏み出します。

前・藤枝順心高校サッカー部 キャプテン
三宅怜（みやけれい）さん（金谷南町）

【サッカーとの出会い】

三宅さんは、幼い頃からサッカーに親しんできました。

「父と兄の影響で、幼稚園（児）の頃からサッカーを始めました。小学3年生まで、金谷サッカースポーツ少年団に所属。その翌年に、順心の下部組織に入りました。順心では毎月2回、小学生と高校生が一緒にサッカーを楽しむ『スクール』という交流があります。そこで、憧れのお姉さんたちを間近で見てきたことも、順心へ入学してサッカーを続ける大きな理由になりました」

【一つにまとまるチカラ】

「私たちの代のサッカーは、相手の傾向や試合状況に応じて、柔軟に戦術を変えられることが強み。それを支えてきたのは、部内を包む明るい雰囲気だと思います。例年以上に、話し合いの場を設けました。陰口を叩くことは簡単です。でも、それ以上にチームとしてのまとまりと成長を大切にしたかったから、部員同士が言い合いになれば、みんなで意見を共有するよう心掛けました。1年生からも意見が飛び交うようになったときは、本当にうれしかったです」

【信頼は日頃の振る舞いから】

キャプテンに選ばれてから、三宅さんは信頼される人物のあり方について、より深く考えるようになりました。

「主なポジションはフォワードで、味方が相手側へ攻める時間を作る『ポストプレー』が得意です。歴代のキャプテンは、当たり前のように先発メンバー。私は途中出場が多く、決勝も出番はありませんでした。そんな自分だからこそ、プレーだけでなく、キャプテンとしての姿勢や行動も意識しました。最も頑張ったのは、声を出すことです。あいさつは、誰よりも元気よく。練習前は張りのある声で『集合』。試合中は『ナイス』『頑張ってこ』など、前向きになれるような言葉を選手に掛け続けました。そうした頑張りの成果が、地域の皆さんを勇気付けることにつながっていたら、うれしく思います。また、試合がPK戦にもつれ込んだ場合、大抵はキッカーを任されました。その際は、堂々と引き受けていましたね。信頼される大切さは、私が目指す教員像にも通じます。大学生活で、青年海外協力隊として活動することも目標。子どもたちから慕われる教員になれるよう、多くのことを学び、経験したいです」

黒ずんだサッカーボールは、まさに努力の証。三宅さんは、これまでの経験を自信と希望に変え、次のステージへ羽ばたこうとしています。

全国制覇を果たし、優勝トロフィーを掲げる三宅さん（中央）

発行／編集 島田市市長戦略部広報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
https://www.city.shimada.shizuoka.jp
0547-36-7118

ミックス紙 FSC FSC® C021550